
報告者名	山口未花子	被調査者生年	①未確認(男)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	①新山浜行政区長(N-7・N-9話者①、N-8話者④)
補助調査者	なし		

被調査者(主な聞き書きは話者①から)

*話者② 1948年(男)、牡鹿地区宮司(N-2・N-6話者、N-8・N-9話者②)

*話者③ 生年未確認(男)、新山地区住民(氏子総代)

本報告は前報告に引き続き、2012年10月28日の新山の火祭りへの参与観察記録である。

朝8時～

朝7時頃に町内放送で「朝8時～生活センターでお札を受け付けます」。生活センターへいくと、氏子総代と神職、お手伝いの女性二人がすでに待機している。お札は家内安全が5000円、交通安全が1000円、海上安全が5000円～10,000円である。

10時～

神社での祈祷が行われる。八鳴神社とその横にある恵比寿神社、集落の高台にある神明宮でも祈祷を行う。恵比寿神社への道は震災によって崩れかけていたため、神職とお供えを持った二人だけが歩いて祈祷した。その途中やのぼりを取り外す際にも神社の裏の崖から石が落ちるなど、かなり危険な状況であった。

最後に神明宮での祈祷を行うと、例祭は一応終了となり後は直会である。

13時頃～

直会

氏子総代とお手伝いの女性、神職というメンバーで直会をする。刺身やオードブルが用意され、神幣としてもち



写真1 供物



写真2 祈祷

いられた魚を汁にしてだす。以前は、カラオケや演芸などをおこなったものだが、今回は食事をしてしばらくすると各自に餅が配られ、閉会となった。



写真3 直会